



## 学びの個別最適化 ⑫

### 自己の生き方・あり方に迫る学び

これが、個別最適な学びの終着点だと思います。

#### 毎日勉強する習慣がつくこと

この生徒は、学校に提出するノートとは別にテスト前は、  
my 自学ノートを  
上位を目指す生徒は、是非my 自学ノート  
ちゃんと家で「勉強」しました！



『ノルマ』を課すということがおかしいといっているのではありません。

「これこれのことをいついつまでにしっかりとやっておくこと！」  
という指導は必要です。絶対に必要です。

しかし、『無意味なノルマ』は、害でしかありません。

残念ながら、自学ノートが、中学生にとって害になっている場合があるということです。

私が指導主事として小学校を訪問したときに見た、あの素敵な自学ノートではなく、とにかくノートを埋めるために、同じ単語が書かれているもの、とにかく写しただけのものなど、発見はおろか何の学びもないものに出会いました。自学ノートの取り組みが、『無意味なノルマ』になっていたからです。

小学校の先生は全ての教科を担当します。朝提出された「自学ノート」を見た担任の先生は、その児童の昨日までの学びを熟知しているはずです。だから、『個別最適な指導』につながります。適切であたたかい褒め言葉が、その子の生き方にまでつながるかもしれません。小学校で、不安があるとすれば、「まあ、これはこれでいいけれど、その前にもっと漢字の復習をなさいね」というような指導で、その子の意欲がそがれなければいいなあと思うくらいです。

教科担任制の中学校で、朝提出された「自学ノート」を見た担任の先生は、点検はできます。それを教科担任につなげるならば、もしかすると『個別最適な指導』につながるかもしれません。でも、中学校の担任の先生には、なかなかそのような時間的余裕はありません。というより、中身を見て、しっかりと指導につなげることは現実には難しいです。生徒一人一人に適切なレスポンスができるようにするためには、相当なシステムづくりが必要です。しかし、そんなことはなかなか難しいので、結局は、出したか出さないかの点検をするしかないのです。残念ながら『無意味なノルマ』になっていることを、熟知している教育関係者だから 上位を目指す生徒は、学校に提出するノートとは別に、テスト前は my 自学ノートを という指摘をされているのです。

**私は、小学校、中学校、高校と、ずーっと 自学ノート が、続けられる学校にしたいのです。**

私が西南部中学校で 『宿題、定期テスト廃止』としたのは、このことにつながっています。

定期テストを廃止し、単元テストに変えたことで学びは少しずつ変わっていきました。テストで点をとることが学びではなく、「わかった、できた」を積み重ねていくことが 学びであることをつかんでくれているはず。現実には、毎週単元テストがあるので、学習時間は増えているのですけどね。

宿題についてですが、『ノルマ』としての宿題を止めただけです。それぞれのすべきことはしっかりとさせるように、『個別最適な指導』を先生たちに求めました。先生たちは、それまでよりも、はるかに大変になりました。「一律に課して、点検する」ことができなくなったのですから。

過去の話は、ここで終わりにします。

金沢龍谷高等学校中等部の未来は、『個別最適な学び』ができるかにかかっています。

自己の生き方・あり方に迫る学び です。

とりあえず、今回のシリーズはここまでにします。